

キッズコミュニティ

甲南大学 3 回生 合田真由美
甲南大学 2 回生 植月 美緒
甲南大学 2 回生 佐本 知穂
甲南大学 2 回生 渡邊 桂

調査対象について

1. 神戸市立田中児童館

正式名称 : 神戸市立田中児童館
運営主体 : 社会福祉法人 神戸市東灘区社会福祉協議会
館長 : 臨床心理士 荻原理恵さん
調査協力者 : 同上
調査日 : 2005 年 5 月 28 日

2. 学童保育園 キッズワールドアフタースクール

正式名称 : キッズワールドアフタースクール
代表 : 太田恵子さん
調査協力者 : 同上
webサイト : dfbwi309@kcc.zaq.ne.jp
調査日 : 2005 年 5 月 31 日

3. 社会福祉法人 神愛子供ホーム

正式名称 : 第一種社会福祉事業 児童養護施設
社会福祉法人 神愛子供ホーム
理事長 : 杉本 俊輔さん
調査協力者 : 同上
調査日 : 2005 年 6 月 28 日

田中児童館

1. 職員と子どもの人数

館長	1名
指導員	1名
管理員	2名
学童保育指導員	5名

子ども 75名

2. 主な活動内容

活動内容	対象	活動元
学童保育	小学生	田中児童館
すこやかクラブ	3～4歳児とその親	田中児童館
ビスケットクラブ	3～4歳児とその親	現在自分自身も3～4歳児のママさんである方たちが作ったクラブ
ポンポンクラブ	2歳児とその親	田中児童館
元気っ子の会	自由参加	元すこやかクラブにいたママさんたちが支援する活動＝先輩ママさんの手助け
その他：赤ちゃん広場・ちびっこ広場・母親クラブ・ポテトクラブなど		

3. 方針

～田中児童館のあり方～

- 地域のニーズに応える活動をする

例えば、東灘では乳幼児が多いので母親クラブのような子育て支援を行う

→若いお母さんが孤立しないように＝ママ友作り

→お母さん達のスキルアップ

- 地域の方に児童館の活動を知ってもらい、利用して頂くように努力する
- 児童館が地域と子ども達、学校と地域を繋げる架け橋になろう！
- 児童館の中だけで子ども達をみるのではなく、地域の中でどのように子ども達を守って育てていくかが今後の課題である

4. 田中児童館の現状

児童館の活動内容は地域のニーズに合わせて考えられている。田中児童館は比較的乳幼児が多い東灘にあることから、学童保育のほかに子育て支援の活動も多く行っている。

学童保育では現在75人の児童が通っている。その多くが近くの小学校に通う子どもたち

で、まさに地域のための児童館と言った感じであった。30年前の学童保育は1クラス15人と定員が決まっていたが、近年女性の社会進出などの影響もあり、現在では学童保育に通う子どもたちが激増している。かつての学童保育はただ単に子どもを預かるだけであった。しかし近年では「子どもの安全」をキーワードに学校や地域のコミュニティと積極的に連携し、活動している。

5. 日常の田中児童館の生活について

<学童保育>

子どもの安全対策のため、学童それぞれの名前を書いたカードを用意し、児童館に着いたらそのカードを特定の場所に置くということにしている。建物の3階という立地条件から普段は室内での活動が多いが、学童保育指導員の引率のもと近くの公園に出かけたりもしている。その他にボランティアの受け入れや、他の児童館との共同課外活動などを行うことにより、子ども達により豊富な経験を積んでもらうように心がけている。

<子育て支援>

学童保育とは別に、週の半分は子育て支援の何らかの活動を行っている。まさに地域のための児童館である。すこやかクラブ・ビスケットクラブ・ポンポンクラブのように会員制の活動や元気っ子の会・赤ちゃん広場などのような誰でも自由参加できる活動など実に多種多様である。例えば、ポンポンクラブにおいて昨年は1クラス35組の親子を定員に決めていたが、今年は応募が多かったので2クラスに増やしたという例がある。これに代表されるように、児童館では多くの活動を行う中さらに地域のニーズに応えるためにさまざまな努力がなされている。

地域の方が「近くに児童館があつてよかった」と思えるような児童館を目指している。

6. 全国児童館大会について

2年に1回行われる全国児童館大会が今年神戸で開催される。阪神・淡路大震災から早や10年を迎えた神戸の街。震災直後から全国の人々にたくさんの温かい支援や励ましをもらった神戸の街。神戸の街もようやく復興の歩みの節目を迎えることができ、児童館も元気に活動している今、「ありがとう」の感謝の気持ちを込めて実施される。地域福祉の担い手としての児童館・児童クラブの新たな役割について話し合われる。特別報告会として、「阪神・淡路大震災と神戸の児童館」というテーマでの報告も行われる。震災時、学校や公園は家を失った人々の避難場所になり、混乱する大人たちの周りで子ども達も不安な毎日を送らざるをえなかった。児童館が避難場所や支援物資配布の拠点となり、制約された状況のなかで力を合わせて行われた活動を報告する。

7. 感想

少子化にも関わらず、学童保育はどんどん増えているという事実がある。実際に児童館

に話を聞きに行つてそのことをすごく実感した。子どもの安全のために地域コミュニティとも連携し、活動している児童館に感心した。物事を地域の問題という大ききで考えていることがよく伝わつた。児童館は子どもと地域の架け橋としてなくてはならないと感じた。職員もきちんとした教育のスキルと経験を持っていて、児童館にいる間も子どもが成長できる環境があると感じた。

キッズワールドアフタースクール

1. 職員と子どもの人数

スタッフ	3名
ネイティブスタッフ	2名
ボランティアスタッフ（有償）	2～5名／1日
子ども	31名

2. 主な活動内容

活動内容	対象
学童保育（子育て支援）	小学生
エレメンタリー	小学生
パソコン開放教室&ピアノ教室	幼稚園年少～中学生
家庭教師の派遣	小学1年生～高校3年生
学習教室	小学1年生～高校3年生
サタデークラス	小学生

3. 方針

～こんな方を応援いたします～

- シングルマザーで働きながら子育てしているお母さん
- シングルファーザーで家事をしながら子育てしているお父さん
- 共働きで帰りの遅くなるお母さん、お父さん

土・日曜日に働かれていますお母さん、お父さんの相談にも応じています。また、介護などで時々子供を預けなければならない方の為に、時間単位での預かりも行っている。

～世界にはばたく子どもを育てます!!～

英語を話す事が出来れば世界が広がる！大きい人間に育てたい！という考えにより、キッズワールドアフタースクール（以下キッズワールドにて省略）では開校当初より特別な理由がない限りネイティブによる英語指導が行われている。実際子ども達の英語力はかなり伸びており、長期休みを利用してオーストラリアの提携校へホームステイに行く子ども達も多くいるほどである。

4. キッズワールドの現状

キッズワールドは2002年1月に設立した新しい学童保育所。

最新のパソコンシステムを導入したブロードバンドによる快適なインターネットや、各

自に1つの電子メールアドレスを提供しこれからの時代に必要な技術を学べ、英語や算数、水泳、サッカー、ピアノなどの習い事も兼ねることが出来、従来の学童保育にはないよりよい環境を提供している。現状としては、外でおもいきり遊べる広い庭がないことが一番の悩み。また親が迎えに来るまで原則預かってくれるというメリットから遠くから通う子ども達も少なくない。子ども達は毎日のようにけんかもするが、大家族のようににぎやかで、寂しい、早く家に帰りたいと言う子どもはいない。

5. 日常のキッズワールドの生活について

学童保育に来た児童たちは、まず玄関にある表の自分の名前にチェックする。制服がある子は着替えをして、宿題をする。宿題が終われば親からするように言われているドリルなどをする。ドリルの指示などは親からメールで送られてくる。終われば遊ぶことができ、各自が登録している習い事の時間になれば、2階の教室に移動する。算数の授業などは神戸大学の生徒さんがボランティアで行っている。

また子どもたちは近隣の御影スイミングスクールに皆で通っている。スイミングスクールとキッズワールドは提携を結んでおり、両方で連絡を取り合い、子ども達はスイミングスクールまでタクシーで移動する。水着などの洗濯、管理もキッズワールドで行っている。

キッズワールドには庭があり、そこで自由に遊ぶことができる。とは言うものの広さは十分ではなく、ボールを蹴るなどの行為は禁止している。そのため、親の許可を得られた子どものみ、決められた時間内で近隣の公園に遊びに行くことができる。この際、人数的な問題もありスタッフはついていかない。

その他にもサッカーのスクールに通っている子ども達もいる。

5時くらいまでに帰る近隣の子ども達は各自で帰る。しかし遠くから通っている子どもたちは、事前に登録している保護者の迎えなしには絶対に返さないことになっている。安全面に関しては徹底している。7時を過ぎる子どもに関しては、親から連絡があれば、近くのお弁当屋からお弁当を配達してもらい、晩御飯を食べて帰る子どももいる。

6. キッズワールド設立のきっかけ

現在、小学6年生の娘さんを持つ母親でもある太田さんは、以前、旅行関係の会社で働きながら子育てをしていた。しかし、公立の学童保育は夕方5時までしか預かってはくれず、パートで働く母親にとってはそれでもいいかもしれないが、会社で正社員として働く母親にとって子育てをしやすい環境とは言えなかった。実際に5時に会社を退社できる会社はほとんどなく、それどころか残業が当たり前な会社もあるなかで、まともに働きながら子育てをすることの大変さを実感し、働く人をもっと支援するような施設があってもいいのではないかと考えた末、太田さんはこのキッズワールドを設立するにあたった。

普通の民家を借り、開設当時は、庭は雑草で埋もれて荒れ放題だったそうだが、少しずつ雑草を抜いていき、今では子ども達が庭で自由に走り回れるほどになった。設立当初か

ら、制度などはほとんど変わっていないようで、これからもこの制度でやっていく予定だそう。

また保育園なども共働きの親が子どもを預けるとき、収入に応じて託児費に大きな違いがあり、働く人にとって不利なものとなっていることを訴えていた。

現代、通り魔やストーカーなど悪質な事件が絶えない社会で、子ども達を5時までしか預からないという公共の施設しかないことを非常に問題視しておられた。

7. 感想

公立ではない児童館が実際にどのようなものなのか、全くイメージが湧かなかった。習い事や学習に力を入れているようで、堅苦しいところを少し想像していたが、実際に訪問すると、子ども達は無邪気で元気いっぱい走りまわっており、公立でも民間でも、そこに通う子ども達には、たいして違いがないのだと思った。太田さんは、あくまでも親の視点でものを考えており、子どもが好きなわけではないと語っていた。しかし、子ども達に「めぐママ」という愛称で呼ばれる太田さんはとても子どもが好きではないようには思えなかった。キッズワールドのように、延長して預かってくれる施設はまだまだ十分ではなく、これからの変化していく社会と人々に対応できる児童館が必要であると思った。少子化を食い止めるには、まず親が安心して働きながら子育てをできる環境づくりを、国が率先して行ってくれることが重要なのではないかと思った。

児童養護施設 神愛子供ホーム

1. 職員と子どもの人数

職員

施設長	1名	事務員	1名
保育士	10名	栄養士	2名
嘱託医	1名	調理士	2名（1名）
臨時職員		臨床心理士	1名
		カウンセラー	1名
英語講師	1名		
児童	24人（入れ替わりは常にある。）		

2. ショートステイ・デイケアサービス

2才以上の児童のデイケアサービス、ショートステイを行っている。年間900人、1日平均3人のデイケアサービスの児童がいる。

3. 児童日課表

6:30	起床
6:45	礼拝
7:00	朝食
7:45	登校
12:00	昼食
18:00	夕食
19:00	夕拝
19:00	入浴
20:00	幼児就眠
21:00	小学生就眠
23:00	中高生就眠

4. 児童行事

- ・誕生日会
- ・ハイキング
- ・夏祭り
- ・クリスマス
- ・庭先バーベキュー
- ・老人ホーム慰問
- ・夏期宿泊旅行
- ・もちつき
- ・夏期キャンプ

5. ボランティア

美容師さん、大学生、地域の方々などや、各種行事の補佐等でボランティアの方々の力が関わっている。多勢の助けを必要とし、随時ボランティアの募集をしている。

インタビュー結果

① 設立当時の施設と現在の施設

かつては、宗教団体が慈悲の心で浮浪児を集めたことから始まる。そのころは、窃盗などのような問題を起こすことから、外からは邪魔者扱いされていた。そういう外部の目から子どもたちを守るために、地域と施設との垣根を高くし、施設は閉鎖的になって独立していた。

しかし、現在では両親のいない子は少なく、施設のほとんどの子に親が存在する。様々な親の事情があつて家庭では養育できない子を施設に預けている。施設側も、地域や社会に児童福祉についての理解を深めてもらおうという姿勢に変わり、ここ20～30年で社会との垣根をとってきた。しかし、施設は子供たちの暮らしの家でもあるため、あまりに開放的になってはならない。子供たちの生活を考え、プライバシーを守ることも大切である。

② 子供に対する、職員の人数について

子供6人に対して職員1人、子供30人に対して職員6人。

しかし実際には、職員さんは子供たちにとって親代わりの存在となるので、もっと人数が必要。

③ 施設で取り組んでいること・イベント、また現状について

最近、大きい子(中学生、高校生)が増えたことによって、団体に動くことが難しくなってきた。以前は、老人ホームにみんなで出かけたり、施設周りの掃除をするなどのような行事をみんなでやったりしていたが、大きい子にとっては面倒くさい・しんどい・楽しくないなどという理由からみんなが一緒に行くことが難しくなった。よって以前のような活動ができなくなり、最近は積極的というよりは、外から誘っていただくなどの受身的な活動が多い。これは、ライオンズクラブの方の誘いやお料理教室の方が来てくださるなどというものである。

ここで、年に必ず行っている3つのイベントがある。これは夏祭り(8月)、クリスマス会(12月)、もちつき大会(2月)、である。どれも施設の子供たちだけでなく親や地域の方々や地域の子供たち、そして神愛子供ホームも一緒に参加する。特に夏祭りは300人もの人がこの施設に集まってみんなで大いに楽しむ大イベントとなっている。

④ 普段から気をつけていること

神愛子供ホームでは一匹の犬を飼っているが、この犬を飼うことで子供たちは生き物の大切さを知り、生き物に対する優しさを学ぶことができる。また犬の散歩をしていくうえで出会った人と会話を交わすなどのコミュニケーションを図ることもできる。

このように、普段の生活の小さなことから生まれる出会いや関わりこそ、子供たちにとって必要なものであり、大切にしていこうと考えている。毎日の生活の中で地域と関わっていくことでいろんな感情を育むことができ、成長していくうえで大きな力となる。もちろん子供たちの自己主張も大切にしていかなければならない。いろんな行事に対して行きたくないという子供の選択権を認めていくことも必要である。しかしこのような自己主張をどこまで認めるかが重要な問題である。

⑤ ボランティアについて

大学生などにも、ボランティアとしてよく来てくれて一緒に遊んだり、子供たちの相談相手になってくれたりしている。子供たちも大変喜んでいるし、やっぱり職員さんとは違って特別なお兄ちゃん・お姉ちゃんといった感覚で親しみ、職員にはしない話などもすることもある。それは、大変うれしいことではあるが、一方で問題もある。たくさん話したり遊んでいくうちに、自分にとって特別なお兄ちゃん・お姉ちゃんといった感覚を持ち、いないと寂しがって普段の態度が変わったり、職員さんに内緒で欲しいものねだりをしたりといった態度をとることも、しばしばある。また、ボランティアとして来ている大学生側も、子供の事情を知り、遊んでいくうちに関係がより深くなることで子供たちに対する気持ちが大きくなり、自分がこの子を何とかしてあげようという気持ちをもってしまうことがある。これは子供にとってもボランティアの方にとってもよくないことであり、子供たちとコミュニケーションを図る上でより信頼関係を築きながらも、しかし一方では深入りしすぎてはならない一線を引くべき部分があるのだ。

⑥ 問題点

子供の入所理由はさまざまであるが、身元を隠している場合も多い。よって施設には地元に関係ない子供が多いということも、地域との関わりが薄い原因でもある。しかし、地域との関わりを重視し関わりを大切にすると、子供たちの自由意思やプライバシーが守れないなどの問題が生じてくる。

⑦ 親に対して思うこと(最近増加する児童虐待などの問題について)

実際親も親なりにどうしようもない悩みを抱えて、計り知れないストレスの中で何にぶつけることもできずに結果的に自分の子にあたってしまうのが現状である。また自分が子供のころに親に愛情を受けた経験がなく、愛情を表現することができないというケースも多いなど、親もかわいそうである。現在、神戸市では育児の疲れに悩む母親の相談を受けることが多く、福祉センターが施設を紹介し、リフレッシュ事業を行っている。

⑧ 施設の卒業生との関わり

卒業後の暮らしは本当に様々で、仕事に就いてうまくいく子もいれば、なかなかうまくいかず、警察に世話になった子もいる。また卒業後の生活がうまくいって、施設や協会にちょくちょく会いにくる子もいれば、もう全く連絡をとりたくないといって疎遠になってしまった子もいる。

主に大きな3つのイベントは毎年同じ日に行っているので、卒業しても会いに来てくれる卒業生たちは、その日に集まってくる。

⑨ これから考えていくべきこと

子供たちの施設から出て行き方が難しい。最近親がよく悩んでいる思春期の中高生の時期は、やはり親とケンカしながらでも子供と一緒にいることが大切である。その時期に共に過ごさなければその子はずっと親との絆を深められなくなる。一方、急に施設から離されて家に帰らされたという状況に、子供は施設の職員さんに見捨てられたように感じることもあり、施設を出るタイミングなども大変難しく、考えていくべき点である。

また、このようなインタビューなどの用事で訪問する外部の者に対しても、難しい問題である。もちろんまわりの人に理解はしてほしいし、いろんな人との交流があったほうが良いが、子供たちにとっては施設自体が家であり、毎日の生活を過ごす家庭なのである。特に高学年の女の子などは自分の部屋に入られることをもちろん嫌がるし、勝手に施設に部外者が入られることを嫌がる子もいる。こうした、家としての存在であることを忘れずに、子供たちのプライバシーや心情の配慮も考えなければならない大きな課題である。

そして最後に、私たちのような周りの人々が哀れみや情けで見るのではなく、児童養護施設をきちんと理解することが必要である。

おわりに

今回、地域とコミュニティについて調べるにあたり、田中児童館、キッズワールドアフタースクール、親愛子供ホーム様に訪問させていただきました。どの館長さんも私たちの訪問を快く受け入れてくださり、丁寧にご説明していただきました。私たちの試みはまだ始めたばかりですが、こんなにも調査がスムーズにいったのは、調査に対して熱心にご協力していただいたことが最大の要因だったように思います。本当にありがとうございました。

3か所を訪問した感想として、やはり想像していたのと実際に行くのとは全く違ったということです。

まず公立の児童館は、どこも同じではないかと思っていたのですが、それぞれの児童館でバーベキューなどのイベント事などを行い、特色や個性を持てるよう努力がされており、またそのような活動を通して地域の方々と知り合い、小学校の先生らとも連結し、子どもたちの行き帰りの安全など最善の注意をしていることを知りました。

民間の児童館、キッズアフタースクールはこれまでの児童館と違い、習い事なども兼ね備え、パソコンや英語教育に取り組むなど新たな試みを行っており、訪問して新鮮なことがたくさんありました。

さまざまのものが多様化している中、これからの時代、児童館もすべて同じというわけにはいなくなっているのだということを実感しました。人々のライフスタイルが変化するとともに、共働きの世帯が増え、夕方5時に帰宅できない、なおかつ子どもが一人では何が起こるか心配な社会で、人々のニーズの応えられる児童館作りが求められているように思います。自分たちが幼いころには、まだ誘拐などの問題が心配されることほとんどなかったように思います。しかし、日本中どこでそのような事件が起こってもおかしくない時代になってしまった今、地域みんなが協力しあい、子どもの安全を見守っていく必要があるといえます。

最後に訪れた社会福祉法人、親愛子供ホームにおいては、これもまたテレビで見るようなイメージしかなく、実際に訪問するまでほとんど情報がなく、児童養護施設はもっと閉鎖的なところだと思っていました。しかし実際のところ、さまざまな活動に取り組み、地域の方々と関わりを持ち、より多くの人に施設に対してもっと理解してもらえるよう、開放的な施設を目指しておられました。テレビでは施設の子どもたちを悲観するような視点で誇張して描かれることが多く、院内暴力などが問題になり、どこの施設でもこのようなことが起こっているかのように思いこむ人もいるため、もっと正しい情報を提供できるよう努力されていたのには、とてもすばらしいと思いました。

田中児童館、キッズワールドアフタースクール、親愛子供ホーム様を訪問し、いろいろなお話を伺うことができ、自分たちにとっても大変貴重な体験となりました。この貴重な体験をいかし、これからの活動に役立てていければと思っています。最後になりましたが、調査にご協力いただいた方々に、改めて御礼申し上げます。